

神奈川県議会議員

赤野たかし

あかの

良い社会をつくるため税金の使い道をかえる

県政の見える化

教育と福祉に全力!!

PROFILE

- ・1969年9月29日生まれ
- ・明治大学経営学部経営学科卒
- ・日本財団経営企画グループ室長など40歳まで会社員
- ・その後、衆議院議員 江田憲司の秘書を経て、41歳で初当選

- ・県議会ではこれまでに県議団会派の団長をはじめ、複数の常任委員会委員長等を拝命。
- ・趣味 旅行、読書(とくに歴史)、格闘技(ボクシング)
- ・家族は妻と子供2人(青葉区で子育て24年)



第20回統一地方自治体選挙について (神奈川県議会議員選挙結果)

2023年4月9日に行われた第20回統一地方自治体選挙において24,571の得票をいただき、4期目の当選をさせていただきました。多くの皆様からのご信任を受けとめ、これからも全力で活動させていただきます。引き続きのご指導をよろしくお願い申し上げます。

立憲民主党 神奈川県議会議員団 新しい会派の「団長」を拝命

2023年5月1日に10名(男女 各5名)の議員で新会派の「立憲民主党 神奈川県議会議員団」を結成し、私は県議団の「団長」を拝命。それぞれの議員の得意分野を活かし、風通しの良い会派運営に努め、黒岩・神奈川県政をこれまで以上に厳しく正します。

令和5年第2回定例会が開催 所属委員会は「総務政策常任委員会」

2023年5月11日から7月11日まで、令和5年第2回定例会を開催。正副議長をはじめ、所属常任委員会及び特別委員会の委員等の決定、さらには予算案や陳情・請願等についても審議を行いました。

私は県行政の総合的企画、県民協働、市町村その他の団体の行政一般、基地、統計、組織及び職員、予算、県税その他の財務、県有財産、情報化等を所管する「総務政策常任委員会」の所属となり、まさに「我が意を得たり」。税金のムダ遣いや使い道を徹底的に正します。

立憲民主党 神奈川県総支部連合会 幹事長を任期満了により退任

2023年7月26日に行われた所属議員101名からなる立憲民主党 神奈川県総支部連合会の定期大会において、幹事長職を任期満了により退任。第20回統一自治体選挙においては、県内に現有76議席のところ98名を擁立し、79名が当選させていただきました。今後は自らの政策実現のために、より時間を費やしていく覚悟です。

2023年7月～8月にかけて県内の 全33市町村ならびに215の各種団体等 を対象とした個別での意見交換会を開催

私はこれまで企業・団体から献金をいただくことなく活動を続けてまいりましたが、団体等との率直な意見交換という面においては、しがらみのない立場で積極的に行ってきたという自負があります。

今年度においては、県議会会派の団長として、7月から8月にかけて、県内全33市町村ならびに215の各種団体等を対象とした個別での意見交換会を県内各地で開催させていただきました。



内野 優 海老名市長(写真 中央右)より私(写真 中央左)ともに県に対する要望書を手交 (2023年7月24日 海老名市役所)

今後、こうした意見交換会等を経たスケジュールは以下の通りです。

①8月下旬 市町村ならびに各種団体からの要望を行政分野毎に
～9月中旬 会派の方針等と併せた協議を行い、最終とりまとめ

②9月下旬 印刷・製本

③10月上旬 黒岩知事に対し、会派として「要望書」を直接手交

④来年1月頃 (来年度予算案等の作成を行う中で)県より回答

私のHPでは、これまでとりまとめた要望及び県からの回答についても公開しています。今後も現場主義を徹底、問題解決に努めます!

私の選挙公約でもある「幸福度日本一」のまちづくりに向け、今後は自らが「ウェルビーイング」の研究を行い、青葉区で住み続けられるまちの実現に努めます

■ そもそも「ウェルビーイング」とは？

「ウェルビーイング」という言葉が最初に認知されたのは、1946年設立の「世界保健機構(WHO)の憲章」に制定された時と言われます。ここで大事な点は、単に「心身の健康」だけを指す概念ではなく、広義の「健康の定義」である「身体的・精神的・そして社会的にも完全に良好で、すべて満たされた状態」を意味することです。なお「楽しい」や「うれしい」などと幸せの感情の一部を表した同じ英語の「ハピネス」とニュアンスが異なることにも留意が必要であると考えます。

■ 「ウェルビーイング」研究の現状、そして今、必要とされる理由は何か！

「ウェルビーイング」の研究は1980年代以降、欧米を中心に行われてきましたが、その一例に「幸せな(ウェルビーイングな)人は、創造性が3倍も高く、生産性も1.3倍高い、さらに寿命についても7年から10年近く長く、しかも健康」といった調査結果もあります。

私たち人類は、産業革命から約300年にもわたり、物的欲求等を満たすために経済成長至上主義を中心としてきたわけですが、異常気象による環境問題や経済格差による貧困問題といった地球規模の課題に対処するためには、日本を含む社会全体が「モノの豊かさから心の豊かさ」にシフトすることが求められていると考えます。

■ 国連の世界幸福度調査 日本の「ウェルビーイング」ランキングは 世界で47位

毎年3月20日の国際幸福デーにあわせ、国連の「世界幸福度調査」の結果が発表されていますが、日本は最新(2023年)の結果で、47位です。ここ10年で申せば、2016年に53位、2020年には62位まで下落しましたが、2021年以降は何とか3連続で上昇しています。

ちなみに1位は6年連続でフィンランド。上位は欧州の国々が目立ち、とくに北欧5か国が7位までに入っているのが特徴的です。

もちろん幸福の捉え方は主観的であり、それぞれの国々の社会や文化等も多様です。調査手法も最悪の人生を0点、最高の人生を10年としているため、回答側の国民性等も加味する必要があります。

日本はこれら上位の国々と比べ健康寿命や一人当たりGDPも高く、勤勉で治安等も良いとされ、さらなる研究が必要と考えます。

■ 県教育委員会が定める「教員の働き方改革の指針」に導入することを既に要請

私が初当選の頃「教員の働き方」について議会で質疑を行っても、そもそも学校現場から声をあげにくい状況にありました。しかしこれを繰り返し続けることで多くのご理解をいただくまでになり、まだ課題は多いものの、国も動き出し、サポート体制が前進しています。

こうした状況の中で私は、子供たちの質の高い教育環境をつくるためには「教員の働き方改革」に「ウェルビーイングの視点」は絶対に欠かせないと考え、県教育委員会の定める「指針」に導入するよう既に申し入れ、県教育長からは前向きな答弁を得ているところです。

■ 高齢者とペットの共生も「ウェルビーイング」

県の「動物愛護センター」では多くのボランティア団体等のご協力により、殺処分ゼロの取組みが継続されているところですが、譲渡先を探すに際しては、これまで原則65歳以下の方に限り、65歳を超える場合にあっては、ほとんど行われていない状況にありました。

こうした状況の中で私は、人生100歳時代と何よりウェルビーイングの観点から県議会で強く改善を求め、その結果、65歳を超える場合であっても「譲渡条件が大きく緩和される」こととなりました。

■ 黒岩知事が県で進める「未病」施策を正し地域力を活かした提案型政治をしていく

県で2014年より始まった「未病改善の取組み」ですが、その後の国等の調査でも、とくに健康寿命等に改善の結果は出ていません。

私はこれまで知事に「多額の税金を長年に投入している以上、健康寿命の延伸や医療費、介護予防等に寄与しているといった、明確な成果を出すべき」と厳しく正してきたところです。

今後の私たちの進める「ウェルビーイング」活動は「幸福度日本一のまちづくり」に向け、真にこの地域が将来にわたって「住み続けられるまち」と「選ばれるまち」になるかの試金石になると考えています。

私はこうした「ウェルビーイング」推進を行うことが、これまでの社会課題を根本から解決することにもつながると考えます。青葉区の地域力をスタートに活動してまいります！

今回のレポートはいかがでしたでしょうか？皆様のご意見をお待ちしています。

<送付先> 赤野たかし政務活動事務所 FAX：045-909-5322

お名前

TEL

ご住所

赤野たかし
政務活動事務所

〒225-0002 横浜市青葉区美しが丘4-1-11F
TEL：045-517-4476 FAX：045-909-5322
✉ takashi.akano@gmail.com

公式サイト



政務活動レポート 第40号

立憲民主党

駅前などで見かけましたら、皆さんの声をお聞かせください。FacebookやTwitterなどでも情報発信しております。